



「去年の自分より・・・」

校長 山田 彰利

今年は寅年、十二支の中では3番目です。古来中国では、十二支を植物の成長に例えることがあるそうです。それによると、1番目の子年は新しい命が種の中で芽生え始める年、2番目の丑年は種の中で育ちはするけどまだ伸びることができない年。そして3番目の寅年は、土の中から芽を出しそれが成長を始める年といわれます。

人間に例えるなら、去年自分の中でじっくりと育ててきたものを、今年はいよいよ外側に見えるようにする年、つまり去年に比べて、自分が成長し始めていることがはっきりと分かる認められる年、そういったところでしょうか。

パナソニックの創業者、松下幸之助氏の言葉に次のようなものがあります。

人と比較をして劣っているとしても、それは何も恥ずることではない。しかし、去年の自分と今年の自分とを比較して、もしも今年の自分が劣っているとしたら、それこそ恥ずべきことである。

先日の冬休み明け集会では、この言葉をかみ砕いて子供たちに伝えました。そして、去年の自分、昨日の自分に負けないよう、少しずつでも成長していけるような一年にしてほしいという話をしました。人との比較ではなく、自分の成長のために努力を続けられる、そんな人間に育ててほしいものです。

令和4年がスタートしました。後期後半の出校日は47日、6年生は43日しかありません。コロナ禍で、制限の下のスタートとなりましたが、子供たちの望ましい成長のため、教職員一同、一日一日を大切に力を尽くして参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 令和4年度 4月からの佃小学校 その1

市の方針・保護者や地域の皆様のご意見などを参考に、来年度の教育計画について全教職員で冬休みから話し合いを続けて参りました。以下、来年度の取組についていくつかお知らせします。

① 二学期制を継続（教育委員会に申請中）

- 長いスパンで子供の成長を捉えることから、じっくりと力を伸ばすことができます。また、7月や12月にも大きな行事を行うことが可能となります。保護者アンケートでも約8割の方から肯定的なご意見をいただきました。

② 3学年以上で、一部教科担任制の導入

- 専科教員の導入や学年内での担当教科の分担などによって、一部教科担任制を導入します。複数の目で子供たちを育てることで、多面的に評価することができます。子供たちにとっても相談したり頼ったりする相手が複数できることで、学校生活に安心感をもたらします。